

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしくここが我が家と思って安心して日々の生活を送れるようにとの思いで理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・いつでも念頭においてケアに取り組めるように視野にはいるような場所に掲示している。 ・朝の申し送りや定例会等で具体的に話をして共有している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には理念を入居前に説明している。地域の人々には理念を理解してもらえるような取り組みがまだ足りないと思っている。	<input type="radio"/> 朝晩の散歩や買い物時に会話のなかで説明したりみどり館便りに掲載する。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕・散歩時の挨拶はもとより花や野菜をいただいたりまたこちらから手作りの品物をおすそ分けしたりして気軽につきあっている。	<input type="radio"/> 継続していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏祭りには参加している。老人会・地域活動等には参加せず交流の場をもうけていないが、みどり館だよりを発行し地域の回覧板等を通じてホームの活動を地域に紹介している。	<input type="radio"/> 行事等は時間的にかみ合わなくて難しい点があるが出来るだけ努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に話し合いはしていないが近隣の一人暮らしの家には散歩がてらに声掛けに訪問している。	○	一人暮らしの方が淋しくにならないように積極的に訪問していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対して改善を要する事項については改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で委員の方々の意見やアドバイス等をいただいてサービスの向上に努めている。	○	地域代表者の方の参加によって地域住民の方の理解が深まっていけるように管理者、スタッフだけでなく他施設の利用者との交流もしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	指宿市の連絡協議会を発足し定期的に担当者はもとより他施設との情報交換し質の向上に取り組んでいる。	○	管理者、スタッフだけでなく他施設の利用者間との交流もしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について定例会などで必要な人には社会福祉協議会を紹介するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことだと全職員が認識している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にはわかりやすく、不安をいだかないように十分な説明を行い理解、納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満・苦情が出た時、原因究明をし納得のいくような対応をとっている。運営推進会議で状況報告をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「みどり館便り」や面会時等に報告している。	○ 個々にあわせた報告もしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情箱等を設置してあるが投書されていない。面会時にお聞きしても「いまのままでいいです。」と言われる。	○ 家族の方へアンケート調査をして意見を聞き運営に反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営・設備などの要望は積極的に稟議書を提出させ可能な限りほとんど許可している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や他科受診等の時は職員を増やしたりその日の利用者の状況の変化で休憩時間の調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行わない。離職は定年(60歳)と本人の一身上の都合によるやむをえない場合のみである。	○ 職員同士の対人関係の悪化がみとめられる場合は異動もやむをえないと考えるが現在まで過去6年間の歴史では起こっていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は毎月1回の法人内の施設連絡会で報告させ館以外の研修会には積極的に奨励し自発的な参加を許可させている。介護技術は働きながら段階的に指導している。館内でも夜間に勉強会を行っている。	○ 現在は同法人の老健における研修会が週に1回実施されるので出来るだけ参加するように指導・奨励したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流し他の施設への見学を受け入れて相互訪問等をして勉強会の機会をもっている。特に同法人の老健とは各種の行事やイベント等に同時に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。	○ 運営推進会議が設立され行政が地域代表など第三者の参加によって積極的な意見と行政からの他施設の取り組みも具体的に聞けるので意義深い会になっている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	理事長や理事長夫人も家庭的な施設であることを理解して訪問して職員や利用者の為に食物の差し入れをしたりして親密感を高めている。また忘年会は当然ながら当館のみの懇親会も開催している。	○ 理事長の今年の念頭所感で今後の施設の問題点や希望を提出するように指示している。満足可能でないにしろ極力近づけたいと考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	夏・冬の賞与時には勤務状況の把握と評価を行って勤務意欲を高めるようにしている。男性職員の人徳とその存在は利用者のためにも他職員のためにも良い刺激となるので積極的に採用した。	○ 各自が向上心を持てるように各自の目標や努力事項を明確にし理事長もさらに積極的に施設に訪問して各個人との対話も深めたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用するまでに本人が見学に来ていただくように声かけをしているが、家族のみが多い。職員が何回か足を運んで顔なじみになってもらう時もある。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様で見学に来ていただいて居室や館内を実際目で見て感じた事、不安なこと、求めていること等を聴いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活が可能ではないかと思われる状況の時は、他のサービスの説明もする場合もある。申し込みをされた方に対しては、定期的に現状を把握している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用できるように居室に馴染みの家具を置いたり職員も本人の興味のある事や得意なものを事前に情報収集して馴染めるようにしている。	○	サービスの利用を開始する前に訪問して安心できるような声かけをしているがスムーズな利用のために積極的に行っていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を個人として尊重し人生の先輩として学ぶことが多い(料理、ことわざ等)。また、体験談も話され感銘をうけることがある。	○	もっとゆっくりとゆとりを持って話を聞いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必ず家族に連絡を取り相談し家族と一緒に協力をいただきながら支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の気持ち、家族の気持ちを尊重しながらこれまでの両者の良い関係を築いていくようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで生家や生活してきた場所に行っている。家族には利用者の友人関係、親戚等に訪問していただくようお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じテーブルで皆一緒に調理や洗濯物をたたんだりして一人ひとりが孤立しないようにしている。利用者の中にはトラブルが発生した時は、仲介に入ったり孤立している時、「こっちに来んね」と言ってくれる方もいらっしゃる。	○	個々を尊重し認め合えるような声かけを継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も退居先に訪問して本人や家族と交流をとり家族も来館し相談される時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望が強く情緒不安定になったりした時は、家族の声を聞くと落ち着き穏やかになるので電話をして協力をいただいたり利用者の目線で傾聴している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	野菜作り、草取り、家事、趣味等得意なことを生活歴の中から見つけ出し現状の把握をしながら本人が使用していた物、愛着のある物を持参してもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェックの観察。ホールで過ごす時の本人の元気の有無を行動や会話の中で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との交流の場を設けた時や面会の際に、ご家族の要望や意見を聞きながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が見られたらその都度話し合いを行い家族に説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等、個人記録に記入し何か気づきがあった時は気づきノートに記入し情報を共有し介護計画に生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時や電話連絡時等に話を聞いたりして家族の状況や要望に向き合ってその時に必要な支援を柔軟に行えるようにしている。	○	医療連携加算短期利用型共同生活介護の指定を受けている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて地域の民生委員や消防、ボランティアの方等とそれぞれに協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当館で支援は終結。また特に本人の意向も無いので他のサービスを利用するための支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にやっていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望があれば入居前のかかりつけ医に受診できるよう支援し、かかりつけ医とは連絡帳で状況報告し、指導をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や今までの環境を尊重しながら言葉掛けや対応等には注意をはらっている。	○	会話の仕方や語調に気をつけながら勉強していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活歴に応じた会話をして希望の表出ができるような支援をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や状態などに合わせて起床、入浴時間、食事にかかわる時間等柔軟に一人ひとりのペースを保てるように支援している。	○	言葉かすの少ない方への支援の仕方を話し合う
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個性や好みを大切にした整容の援助を心がけている。おしゃれをすることによって生活のリズムや高揚感を与えるように支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであるので気持ちよく食べられるように職員の席はまともさずサポートの必要性を考え座っている。準備、片付け等をできる範囲でお願いしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望んでいる嗜好品は楽しめるように支援を心がけているが、安全面、健康面で禁止せざるを得ない物もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排尿間隔や排尿回数を観察し排尿パターンを把握して声かけと事前の誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝、夕食後の入浴希望の利用者は現段階ではおられず、今までの生活習慣でもない。入浴希望があれば毎日でも入浴できる。	○	今の入浴パターン以外の希望者がみえたら前向きに対応を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の表情や動きを観察し休息の有無を読み取り声かけしている。夕方から落ち着きがなかったりした時は、不安要素を取り除けるようゆっくりと話を傾聴している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前に生活歴を把握しその人の趣味、興味のあるものを日々の生活の行動や会話の中からみつけ支援しているがまだ不足であると思っている。	○	ホールで過ごすことが多いので退屈しないように会話をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理の力量を点検し家族の了解のもと所持していただき収入、支出も記録する。記録することで字も忘れないのでリハビリにもなっている。	○	お金を所持する事に対して、消極的な方がいらっしやるのでこれからも声かけしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や郵便物の配達などに付き合っている。また、散歩にも出掛け気分転換を図っている。	○	買い物等は特定の入居者のみになる傾向があるので、内向的な利用者も表情や動きを観察し外出の機会をもうける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公共機関へ出掛けたり夜間の外出体験もして利用者から喜ばれた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり利用者様にお礼の手紙を書いて頂いている。本人の希望があればご家族に電話をかけたりまた家族からも電話がかかってくる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事や館内での出来事を便りに書いてお誘いもしている。また、いつでも気軽に訪問ができるよう理念である笑顔でお迎えしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様は自由に行動しているし、身体拘束のないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は基本的に鍵をかけないように取り組んでいるが地域的なリスクを抱えているので職員の休憩中の手薄になった時には鍵をかけたりするが常ではない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の行動や様子を注視しながら見守りやすい場所で記録もしている。夜間は安眠をさまたげないように巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	服薬については施錠した部屋に保管し洗剤、刃物等については目に触れない場所に保管している。夜間はガス、ポット等は元栓を切っている。	○	マニュアルを作る。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデントのみではなくヒヤリハットもスタッフ会議で話し合い原因究明事故防止に取り組んでいるマニュアルも作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時には即母体病院に連絡している。応急手当等のマニュアルを作成しているが訓練は少ない。	○	訓練を定期的に行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・夜間両方を想定し訓練をしている。どの様にすれば迅速にできるかスタッフ会議等で話し合いを行っている。	○	地域の人々への声かけ。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全を第一に考えているが、日々の生活の中で起こり得るリスクについて説明し理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の表情や行動・言動等を注視し、小さな事でも通常と変化に気づいたら気づきノートに記載し共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効用・服作用をしっかりと理解し、症状の変化が生じた場合すぐに主治医に報告し指示をいただいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト等を活用しスムーズな便通に配慮している。腹部マッサージや散歩も取り入れているが頑固な便秘には下剤も使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	不潔にしておくことのリスクを説明し、毎食後の歯磨きは自分で磨いてもらっている。十分でない場合は、職員が磨いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談して助言をいただいている。好き嫌いのある方は調理方法を変えたり、水分補給の少ない方はお茶飲みだけではなくコーヒー・ジュース類をお出ししている。	○ 年1回、アルブミン検査を行う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策のマニュアルを作成しマニュアル通りにできるよう予防接種、定期健診も行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品については、日付のチェックや加熱処理を行っている。調理用具等は夜間にハイターや熱湯消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植えて違和感なくいつでも安心して気軽に出入りができるように心がけている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には季節の花々を飾ったりその場所々に合った装飾でアットホームな雰囲気作りを工夫している。天候によって、廊下が暗く感じる時は電気をつけたりしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてくつろいでいただき、和室は狭いながらも寝転がれるような空間を確保している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や生活歴、趣味等をお聞きし家族の協力のもと愛着のある服や生活用品等を持参していただいて居心地のよい居室作りを工夫している。	○	家族への声かけは引き続きしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や気になる臭いのある時は日常的に窓の開閉を行っている。温度調節においては夏場は自然の風がはいれるように開放し冷房だけに頼らないようにしている。また暖房においても同様設定温度を調整し適度の運動も心がけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かして自分の力で歩行していく動線を把握して手すりやダンス等で補助できるように設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認識間違いや判断ミスが生じた場合は説明と実際やってみせて不安や混乱等を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には洗濯物干し場があり一緒に干したり四季折々の野菜や草花等も植えており水かけや草取りをやっていただいている。また自発的に朝刊を取りに行ってくれる利用者様もいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

**【アピールしたい点】**

のどかで静かな自然環境に恵まれた郊外にあり、構造的には施設的であるがソフト面でお家で安心して生活しているような環境をつくるように工夫をしている。

浴室は温泉で、ゆっくりと入浴を楽しんでいる。

ご家族の方も協力的で家族会にもほとんどのご家族が参加してくださり親睦をふかめている。